

富山高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	船舶安全学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0126			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「船舶安全学概論」 船舶安全学研究会編 成山堂「海技実習ポケットブック」 古荘雅生監修 海文堂						
担当教員	笹谷 敬二						
到達目標							
船舶職員として必要な基礎的な安全（防災）意識の定着化を目指す。後期の内容は、STCW条約に基づく消火講習、ヒューマンファクター、ヒューマンエラー等を学んだうえで、海難予防の考え方を学ぶ。後半では、労働災害予防の為の法的枠組み、及びリスクアセスメント、KYT等の労災予防の為の実務を演習を交えて学ぶ。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	船舶安全学の、「災害発生メカニズム」、「災害の防止方法」等の基本的な概念を良く理解している。		船舶安全学の、「災害発生メカニズム」、「災害の防止方法」等の基本的な概念をおおよそ理解している。		船舶安全学の、「災害発生メカニズム」、「災害の防止方法」等の基本的な概念を理解していない。		
評価項目2	船舶安全学の、「ISMコード」「船位通報制度」等の基本的な概念を良く理解している。		船舶安全学の、「ISMコード」「船位通報制度」等の基本的な概念をおおよそ理解している。		船舶安全学の、「ISMコード」「船位通報制度」等の基本的な概念を理解していない。		
評価項目3	船舶安全学の、「災害防止のための法整備と実情」の基本的な概念を良く理解している。		船舶安全学の、「災害防止のための法整備と実情」の基本的な概念をおおよそ理解している。		船舶安全学の、「災害防止のための法整備と実情」の基本的な概念を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	・安全の基礎概念と災害生成過程の概要を理解する。 ・災害の最大要因であるヒューマンファクター(ヒューマンエラー)の概要を理解する。 ・ISMコードの概要を理解する。 ・労働者を保護する法的枠組みを概要を理解する。 ・労働災害予防する上でのリスク評価、KYT、5Sの概要を理解する。						
授業の進め方・方法	教員の単独。一部、若潮丸、臨海実習場の支援を受ける場合がある。座学、練習船、実習場での救命関係の現物説明を中心に授業を行う。洋上救命講習と密接に関係した授業を行う。						
注意点	船舶職員養成施設履修科目における、航海コースでは非常措置・医療・捜索及び救助・船位通報制度の1単位分、機関コースでは船内作業の安全の0.2単位分が含まれている。また、救命講習、消火講習の基礎知識を満足しており、4年次7月の若潮丸を使用して行う救命講習実技、同じく3年次の消火講習に連動している。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	本授業科目のガイダンス		授業の進め方と評価法について紹介し、授業概要、関連する科目と自習法について解説する。		
		2週	火災と消火 1		船舶火災の特徴、燃焼の理論、消火の理論を説明する。		
		3週	火災と消火 2		消火剤と消火器、固定消火装置、火災探知機、消防員装具、検知器具の機能と実際の使用方法を説明する。		
		4週	ヒューマンファクター 1		ヒューマンファクターとヒューマンエラーについて		
		5週	ヒューマンファクター 2		ヒューマンエラーの起源、ヒューマンエラー対策、ヒューマンエラーの分類		
		6週	ヒューマンファクター 3		ヒューマンエラーに基づく災害の事例研究を紹介する。		
		7週	労災予防のとらえ方		5S、KYT、リスクアセスメントの考え方を説明する。		
		8週	中間試験		中間試験		
	4thQ	9週	KYTおよびリスクアセスメント演習1		KYT 4ラウンド法を用いて現状把握からタッチアンドコールの設定までの演習を行う。		
		10週	KYTおよびリスクアセスメント演習2		KYT 4ラウンド法と同一事例を用いてリスクアセスメントの演習を行う。		
		11週	安全を確保する枠組み 1		労働基準法、労働安全衛生法、労働安全衛生規則について説明する。		
		12週	安全を確保する枠組み 2		船員法、船員災害防止活動の促進に関する法律、船員労働安全衛生規則について説明する。		
		13週	安全を確保する枠組み 3		同上		
		14週	救命講習		射水市消防署にて心肺蘇生法、AED使用法、応急処置について講習を受ける。		
		15週	成績評価・確認				
		16週	答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	80	0	0	0	0	20	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0